

かまどベンチづくり新聞

2010
防災教育
チャレンジプラン
番号08
彦根工業高等学校
都市工学科



「かまどベンチづくり」は、ものづくり体験型の防災減災教育活動・地域活動として様々な効果を発揮します。詳しくは彦根工高の展示コーナーへ。

速報 “かまどベンチづくり” が 県の施策事業として展開！

県の地域減災しくみづくり検討会は十八

かまどベンチ活用策を盛る

地域の防災検討会 知事に報告書提出



嘉田知事案に報告書を手渡す立木教授＝県庁で

日、被災時には炊き出し用のかまどに、平時にはベンチになる「かまどベンチ」の活用策を盛り込んだ報告書を嘉田由紀子知事に提出した。

平成23年2月19日(土) 中日新聞より

かまどベンチづくりの「手作り」という製作プロセスや完成後の活用、その他の活動との組み合わせが、地域や世代を超えて、多様な効果をもたらします。

チャレンジプランで育まれ、そしてみんなで作ったプランがさらに前進！



彦根工業高の生徒のかまどベンチ作りに取り組み自治体＝県内で

報告書では、かまどベンチは平時、地域の祭りなどで使えるため「生活防災の象徴」と位置づけられた。土手に桜を植えて、花見のたびに人が集まり土手を踏み固め、生活の一部に自然に防災意識を組み入れていった先人の知恵「土手の花見の防災」の意義を記した。

かまどベンチは、彦根工高が二〇〇九年に考案。同校が作った製作マニュアルを元に、地域でかまどベンチを作り、協働意識を高め、県内全域に広げる必要性を訴えている。

「滋賀県地域減災しくみづくり検討会」：学識者や教育、自主防災組織、NPOなど関係9人で構成。2010年7月から計5回の議論を重ねた。被災、防災の担い手である住民、企業、団体、学校などの地域の構成員が、防災において果たすべき役割を意識し、連携・協働の下、地域特性を踏まえた減災力、防災力の発揮が求められている。そのための「仕組み」を検討し、「滋賀モデル」とも言える具体策を検討

「活動の手引き」改訂版作成・発信！

「製作編」を別冊に。全国各地で展開。彦工も継続活動

「防災教育チャレンジプラン」HP

<http://www.bosai-study.net/top.html>

からダウンロードできます。

活動を内容を紹介する「活動の手引き」を改訂、「活動編」と「製作編」の2部構成とした。手引きでは、材料や道具、製作方法を紹介し、チャレンジプランホームページなどで全国へ発信している。県内各地の地縁団体はもちろんだ、神戸市立魚崎小学校PTA、和歌山の宝木中学校PTA、和歌山の新庄中学校、愛媛県東予高校、福岡県の祐誠高校などが、全国で活動が実施されている。



上：手引き改訂版
左上：神戸市立魚崎小学校FFの会
左下：宇都宮市立宝木中学校PTA

栃木県宇都宮市立宝木中学校PTAの 活動記録紹介

【最終ページより】



6. かまどベンチ作りを終えて



平成22年夏（猛暑）。



そこには現役保護者がいた。新米OBもベテランOBもいた。先生もいれば、生徒もいた。みんなが麦茶を持ち寄り、焼きそばやキュウリの漬物が差し入れられた。



ときには意見の違いからイライラすることもあった。手際の悪さに声が大きくなることもあった。ときには誰かの冗談で涙が出るほど笑った。声を掛け合って、それぞれのできることを自然に分担した。



そう、とにかく、暑かったし、熱かった。



大人になってから、こんなに大勢で汗を流したことがあっただろうか。こんなに真剣になって、ひとつの目標と向かい合ったことが……。まるで学生時代の文化祭みたいに。



「かまどベンチ」は宝木中創立30周年記念の寄贈品である。『学校のために、生徒のために、地域のためになるモノ』として製作されるのだが、今思い返せば誰よりも、作った私たちの心の中に大きな熱い思い出を残してくれていたのだ。



また「かまどベンチ」製作は、普段は忘れていた「非常時」を想像させてくれる貴重な機会だった。災害はいつ、どこで起こっても不思議ではない。しかしテレビで災害のニュースを見聞きしても身近なものとして受け止めるのはなかなか難しい。「かまどベンチ」を製作しながら、この宝木地区の「非常時」とは実際にどんな状況なのかということも皆が考えた。



そして確信したことがある。万が一、そのときが来ても私たちは協力し合える。「かまどベンチ」作りがそれを証明してくれた。



30周年記念事業実行委員会副委員長 大橋恵美 記

